

けんしゅう だより ②



中央中等教育学校 授業研究・FEWC 推進部
新しい学びのための授業改善研修 第2号 令和4年8月9日発行

＊新しい学びのための授業改善研修会後の振り返りアンケートを元に作成しています。
＊スペースの都合上、ご意見同士をあわせたり、編集したりさせていただいた部分がございます。

校内研修テーマ：ICT の効果的な活用を含めた
探究的で創造的な学習の導入による授業改善

足立晋先生 社会 1学年

・ LESSON OUTLINE ・

四大文明について各探究班共同で1つのスライドを作成・発表させるジグソー型学習。
探究グループ内で共通する内容をスライドにまとめ、
文明発展にどのようなプラスになっていたかについて、生徒の仮説を発表させる。

1. 探究的で創造的な課題について

- ・四大文明について調べた上で共通する特徴を探すというのは、生徒にとっても考え易く、課題設定の仕方として参考になった。文明について絞って考えることでより探究的になった。
- ・調査する観点が事前に与えられていないため、文明の何を調べるのかが班によって異なっていた点が気になった。
- ・調べる項目を取って示さないことで、共通点を探し、それが文明の発展にどうつながるか、という次の活動に広がりが出た。文明について様々な観点から調べ、他の文明と比較する中で学びが深まった。
- ・授業のねらいとしては課題2を考えさせたかったのだろうと思われるが、文明の下調べは事前にさせておけば、もう少し時間が取れたかもしれない。それでも足りなかったかもしれない。
- ・閲覧したウェブサイトの多様性がもっとあればよい。(すぐ Wikipedia を見ている生徒も)

**

- ・あんな短時間で聞いた情報を分析して共通をよく探したと思った。「特徴」は一人一人意味が違うので、もし共通する特徴を調べなかったら、共通を探せなかったはず。
- ・特徴の項目を自分たちで設定していたので多様な意見が集まっていた良かった。
- ・教科書・資料集・インターネットなど複数の資料を使いながら、自分たちでスライドの項立てもして調べるべき内容を考えられていた。
- ・ジグソー法を使うことによって、生徒が自主的に考察したことをスライドにまとめていた。どのようにわかりやすく伝えるかという点において、探究的に活動していた。

**

- ・調べ・まとめ・伝える の部分に分かりやすくわかれ、レッスンの立て方はよかった。インターネットで調べた専門用語や漢字が読めなかった生徒がいたので、じっくりそのことばの意味も調べる時間がもっと与えられればと思う。
- ・調べる中で教科書以上の内容に触れて、さすがに中学1年生には難しいであろう事柄が多く発表されていた。時間があればそこからさらに疑問に対し、探究していくこともできたかもしれない。
- ・「仮説を立てる」は、探究的で創造的な学習活動における重要な1ステップ。今後仮説を検証していく(身近な生活から証拠を挙げてサポートする等)過程において、他者との学びあいによる新たな気づきや異なる要素同士の新しいつながりの発見等が起こり、それらを最終的な結論へまとめる活動へと継続していくことが大切ではないか。

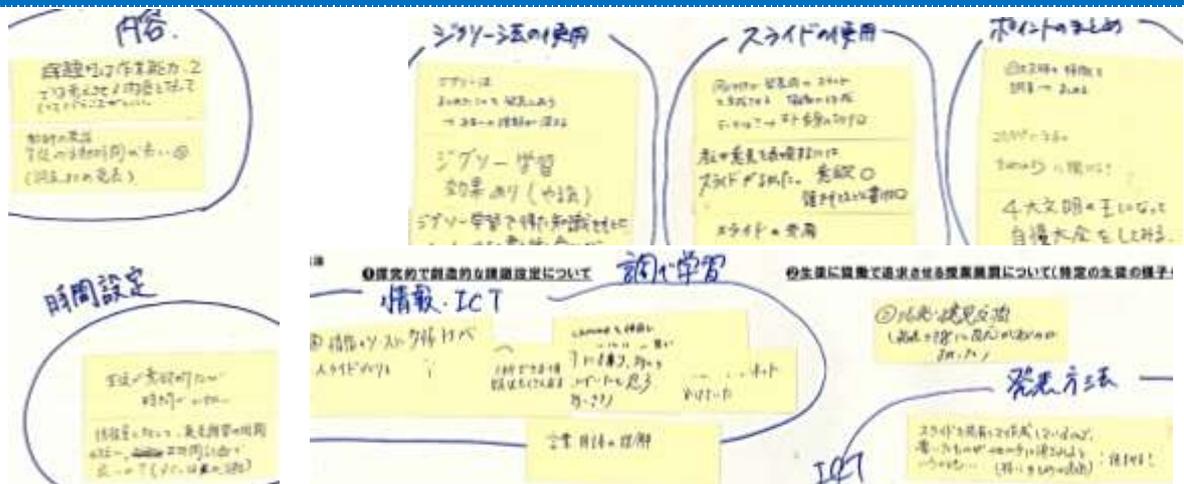
2. 協働的に追求する授業展開や生徒の様子について

- ・仲間の発言やある一言で世界がどんどん広がっていった。
- ・文明が発展した理由について気づいたときの生徒の様子はいきいきとしていた。
- ・ペアやグループでやるのは正解。互いに助け合い、周りの生徒のやっていることを見て真似しやすい環境だった。
- ・積み重ねの成果だと思うが、生徒が安心安全に発言できる雰囲気を生徒自身が作ることができていた。

**

- ・Chromebook を道具として使っている。スライドはそれぞれが作成しているのですが、他の人によって書いたものが消されたり、加工されたりすることが起きていた。班ごとに方針を話しあってから作成すると、防げたかもしれない。
- ・2つの課題を生徒全員で解決していく方法は協働的といえるが、発表したものを再考する時間があれば様々な意見を交わすことができるので、より発展的に授業が展開できると思う。
- ・生徒に調査結果を発表させた後で、生徒同士で質問などのやり取りをさせる時間があるとよかった。スライドの説明文を読み上げていた生徒が多く、難しい用語もあったが特に補足説明することがなかった。
- ・スライドを作ることがメインになっていた。ICTを活用するという縛りがなかったらどうだったのか見てみたかった。
- ・調べ・整理の段階では協働的な展開への仕掛けがよく機能していたが、まとめ・表現の段階では必ずしも機能していない班もあり、時間設定も含めて工夫が必要と感じた。
- ・調べてスライドにまとめる時はあまり手が動かない生徒もいたが、共通点を探す際は活発に協働できていた。
- ・班で共有する場面で、①各文明の説明発表 ②共通点等を相談して見つける、と2つあった。①では、発表のさせ方とスライドのレイアウトを統一するとよい。②では、1人の生徒の発言からほかの生徒が調べてまとめるなど聞き合う姿勢が見られた。

3. 研修会 KJ



4. 学んだこと

- ・幅広い課題に対してどう明確に論点を持つてくるのか、また、協働学習において意見交換や共有する場面ではどのツールを使うのがよいのか。
- ・グループ内で活発にリズムよく発言をする子、そして言葉は発しないがそれをうなずきながら聞いている子、協働学習だからこそ自分らしく学べるのだと思った。
- ・1年生のうちから、作業量の多いものでもこなせることに驚いた。自分の授業構成を見直したい。
- ・コピペの扱いは中学生段階でも指導していく必要性を感じた。義務教育段階で「発表とはネット上の情報をそのまま言えば成り立つ」と勘違いしてしまうと、大学でまともな研究者が育たなくなってしまう。そもそもICT全般についてもリテラシーについても、教員自体にどのように指導するべきかのガイドラインも示されていないような気がする。chrome の扱いについても、教員の自主研修によって成り立っていて、県は配っただけという印象。
- ・今回の授業は「四大文明」の内容に迫るといより、発表の仕方、特にわかりやすく相手に伝える方法に執着していたので、社会科を全面に出すには、文明の特徴を比較させる時間をより多くとったほうが良いように感じた。

・ LESSON OUTLINE ・

図形の塗り分けについて、授業者の講義動画（事前視聴）の要点を踏まえ、授業時に生徒同士が交流しながら演習・入試問題に取り組む反転授業。活動を通して図形や組み合わせのパターンを頭の中で想像し、それを他者に伝わる形で表現させる。

1. 探究的で創造的な課題について

- ・頑張れば答えが出せそうで、解決するための思考（情報の収集・整理・分析）を行うことができる課題であった。
- ・公式や既習の事柄に当てはめて考えるのではなく、自ら手を動かし（実験し）規則性を見いだしたり、条件に当てはまらないものを除いたり、試行錯誤しながら考えられる課題。
- ・魚を与えるより魚の釣り方を伝える（自分たちで考えるように導く）発問・解説。
- ・学び合いまでできる課題は、どのレベルに合わせ、どんな観点で作ればよいのか。教え合いのその上を目指すのは難しい。
- ・探究的なものは設定しやすいが、創造的なものについては課題自体が設定しにくく感じる。設定した課題の答えに到達することで終わりになる課題は創造的なのか。課題のレベルをどう設定すべきかについても考えさせられた。

**

- ・既習知識をもとに、どのように問題を解くのかというアプローチの仕方を探るところに創造性があると感じた。
- ・本時の2題の演習は、課題を解決するために多角的なアプローチができること、互いの思考を説明・共有することなどが探究的な活動だった。
- ・特に大問2では、手を動かそうという松村先生のアドバイスで、バリエーション豊かな塗り分け方法が見られた。終始問題と格闘する生徒の様子が印象的であった。
- ・数学は「既にある公式で計算する授業」という先入観があったが、誤解だった。今回の授業は図に書いて数えたり、実際に具体物を触って向きを回転させて重複がないか確認したりするなど、もののとらえ方や考え方、答えに行きつくまでの道筋に探究性と創造性を持っていた。
- ・深い学習内容で、自分の勉強にもなった。もっと深く探究できる内容だったが、時間が足りなくてもったいなかった。

2. 協働的に追求する授業展開や生徒の様子について

- ・似通った考えを共有しつつ、共に解決に向かうグループと、解けない生徒に丁寧に説明する生徒のペア、糸口がつかめず一緒に悩んでいるグループなど様々だったが、いずれも積極的に取り組み、教師のヒントや説明に熱心に耳を傾けていた。生徒が個の活動とグループの活動のいいとこ取りをして、理解を深めていた。
- ・生徒の個の能力が高く、的外れなことをやりだす生徒や困り感のある生徒はほとんどおらず、理想的な協働学習が展開していた。標準的な能力のクラスではどのように授業を展開しているのか興味をもった。
- ・同じレベルの生徒は協働的に学習できるが、差のあるグループは特定の生徒のみが活動している感じがした。
- ・自分も常に悩んでいるが、共有のやり方が難しい。ペア、グループ、クラス内誰でもと指示しても結局はいつも同じ面子での共有が多く、マンネリ化、形式化している。協働学習の様子だけでは深く考えられているかがわからない。
- ・学び合いが固定化したグループ内で完結していて、それを越えた共有や個での振り返りの場があればと思った。
- ・個の時間も大切にしていると同ったので、集団から個に戻して一人で問題に向き合う姿も見てみたかった。全員が初めの自力の解答から大きく進歩したものになる気がする。

**

- ・考えを言語化し、伝えることの大切さ。言語化によって自分の考えをまとめることもできるし、それを相手に伝えることで自分の矛盾にも気づくことができ、さらに、相手から意見ももらえる。難しいけれど、アウトプットは大切。

- ・Aさんは率先してサイコロや四面体を活用していた。4STEPも開き似た問題はないか探したり、自分のグループだけでなく他のグループに相談したりと活用できるものを次々と手にしていた。周囲とともに何とか問題を解きたいという気持ちが伝わってきた。身体を震わせて自分の考えを伝えているBさんの姿も印象的。
- ・解決の手立てを知るため、自分の考えを共有するために自分から行動をしていた。日々の授業での習慣が大切。
- ・難しい問題を間違ってもいい、恥ずかしがらず聞ける、という安心な場がよく出来ていた。
- ・素晴らしかった。授業での学びはこうあるべき。

3. 研修会 KJ



4. 学んだこと

- ・自分の課題設定はやはりレベルが低いと痛感。生徒が向き合いたい課題を検討したい。
- ・詳細な解説をしすぎないことと、適度な足がかりを与えることが、自ら考えて答えを導き出そうとする生徒の姿勢を醸成していくこと。
- ・自分の授業において、生徒の活動がただの演習になってしまうことが多く、課題と感ずる。演習問題に取り組む意味付けや取り組んだことによって見出せる何かを工夫していきたい。
- ・東北大学の問題は場合の数を数え上げるだけでなく、数式を用いて求めることができた。そのための試行錯誤は私も楽しかった。生徒に提示する教材を適切に選べば、生徒は勝手に探究していくことを再確認した。自分が楽しく感じる問題を提示し、生徒と一緒に楽しみたい。

指導講評・講義について

- ・単元を貫く問いが重要であるだけでなく、その問いが「生徒全員が追究したい問い」となるよう、工夫をすることが大切だと学んだ。その工夫がうまくいけば、単元の学習活動全体が自ずと創造的なものになっていくのではないかと。
- ・単元を貫く問い・全員で追究したい問いと学習課題の違いをもっと明確にしてから授業に臨まなければならないと思った。
- ・学習課題を共通課題(単元を貫く全員が追究したい問い)にする。じっくり考える時間を確保する。間違いやずれから多くを学ぶ。自分の授業では、つい先を急いで生徒の思考を切ってしまうことがあるので考える時間を確保させたい。
- ・「じっくり考える」時間を確保しつつ、班で活発に意見交換させる時間も確保する。それぞれの両立が大切。
- ・「ありをりはべりいまそかり」を暗記させる指導は意味がないと講師の先生はおっしゃったが、これは古文の基礎知識の一つであり、覚えていなければその先はない。素読に代表される過去の日本の学び方(先に知識を教え込む)であっても、アハ体験は十分にできる。大切なのはICT活用等の方法論ではなく、教師が常にその単元での深い学びを意識して、如何にタイムリーに生徒に働きかけるかだと思ふ。
- ・手段、方法と目的の設定を明確にすること、互いのもつ情報や考えを知りたいと思わせる設定の大切さ。
- ・グループワークだけでは学びにはならず、的確な課題設定が大事。徐々に教え合いから学び合いに移行したい。
- ・生徒が自ら解決に向かって進む姿勢を支援し、教師主導で説明的な授業にならないようにしたい。